

資質能力を目指す現職教育

～専門職としての自覚と確かな指導力を高める研修の充実～

1 はじめに

学校力を高め、児童を目指す姿に育てていくには、教職員の資質・能力の向上は不可欠である。個々の教職員の指導力の向上と、共通の目標の達成に向けて機能する教職員集団の育成が求められている。そのために、校長は教職員の資質能力が向上し、一人一人が学校経営参画意識や自身のキャリアの展望をもつようになる研修を推し進めていかなければならない。研修の推進に関わる校長の果たすべき役割や、個と集団を高める校長の指導の在り方について探り、明らかにしていきたい。

甲州市教育委員会は、「日本一あいさつができる甲州市」、「日本一マナーのよい甲州市」を標榜し、「人・ふるさと・自然を愛する甲州教育」を展開している。市内の児童生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせることを目的とし、「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト」を推進、さらには、地域や学校の諸課題を解決するために、研究指定など国や県と連携しての事業も積極的に進めている。本研究を進めるにあたり、市教委の取組や事業についての基本的な考え方や内容などについても理解をさらに深めていきたいと考える。

2 研究の概要

(1) 研究の内容

- ①各校の実践事例（ア学校課題等、イ児童に育成すべき資質・能力、ウ教職員に求められる資質・能力、エ校長の役割・指導）をもとに、校長の果たすべき役割と指導について協議していく。
 - ②市指導主事を招聘し、市の取組や事業について研修する。校長の果たすべき役割と指導について協議する。
- *人事評価制度が今年度より本格実施されることから、協議の後半部分、人事評価制度に関わり情報交換を行う。

(2) 各校の実践事例（10/18 神金小の発表までを掲載）

【塩山南小】校長は、学校課題をもとに、児童には「これからの知識基盤社会」を生き抜く「確かな学力」を身に付けさせたいと考えている。そのために、校内研究を充実させ、教育理念や指導内容について、全教職員が高い見識をもち常に指導力を磨き、教育活動の充実が図れるようにしている。

【塩山北小】（平成28年度文科省「スーパー食育スクール事業」指定校）校長は、食育における体験活動や教科・領域における授業実践を推し進めるとともに、Q-Uの取組を生かしながら集団の力やつながりを充実させたいと考えている。教師力の向上としては、・指導力、・児童理解力、保護者対応力の育成を心がけている。

【奥野田小】校長は、学校課題の最優先事項として、児童の学力差を掲げている。課題解決に向けて、教材・発問の工夫や支援体制の充実など、「わかる」「できる」授業づくりの取組を推し進めている。職員には校内研究に積極的に参加させ、学習状況の分析とそれに基づいた適切な支援が行えるようにさせたいと校長は考えている。

【大藤小】（文科省「少子化・人口減少に対応した活力ある学校推進事業」指定校）校長は、社会の

変化に伴い、児童一人一人の個性が多様化する一方、学習意欲や学習能力の個人差が広がっていることを学校課題の第一にあげている。学校経営方針を職員に周知徹底し、「つなげる・つながる」を合言葉に、少人数における「つなぎ・学び合う学習集団づくり」の取組を推し進めている。

【神金小】(文科省「少子化・人口減少に対応した活力ある学校推進事業」指定校)校長は、小規模校の進展により、児童が相互に切磋琢磨する機会の減少や幼児期からの友人関係の固定化などを学校課題の第一に取り上げている。その解決に向けて、文科省委託事業を有効に活用すること、特に、ICT環境(タブレット・電子黒板)を有効活用する実践を推し進めている。

《甲州市教育委員会》これからの「知識基盤社会」を担っていく甲州市の児童生徒に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力。表現力を育成するとともに、主体的に取り組む態度を養い、本市児童生徒の確かな学力の定着・向上を図ることを目的とし、甲州市教育委員会は、平成23年10月に「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト委員会」を発足した。「学級づくり・集団づくり部会」、「授業づくり・授業改善部会」、「保護者・地域住民との連携部会」の部会構成で、取組は3期目(平成28年4月1日～平成30年3月31日)を迎えている。

3 まとめと課題

(1) 第58次校長研究集会より

11月16日の研究集会・分科会の中で、前後屋敷小校長・雨宮貴先生より、次の内容で指導・助言をいただいた。

○学校教育を推進する上で、校長に任される役割は非常に大きい。各校・支部の実践を持ち帰り、それぞれの実践に生かしていきたい。

○「教育は人なり。」人間を教えるのは人間である。その教員を学校で育てていく意味を考えたい。

○(発表内容より)それぞれの学校が実状に合った実践を進めている。また同時に、教育の最先端を追求すべく、市校長会が核となり甲州市としての統一した取組を推し進めている。

○中教審答申「これからの教育に求められる」では、これからの教員には、「自律的に学ぶ姿勢」や「新たな課題に対応できる力量」を身に付けること、これからの学校については、地域人材や専門家、司書等を積極的に活用する「チーム学校」の視点が求められることが触れられている。こうした時代の大きな変遷の中で、自分の考えをもって自立していく子供たちを育てる学校の使命の大きさを改めて確認したい。

(2) 今年度の研究を振り返って

2月23日の井尻小の発表により、構成して8校全てが実践事例を紹介することができた。実践事例をもとに、研修の推進に関わる校長の果たすべき役割や、個と集団を高める校長の指導の在り方について改めて整理し共通理解を図るとともに、来年度は教職員の資質・能力の向上に向けて、校長の効果的な働きかけをさらに具体化させていきたいと考える。

(部長 小林 俊彦)